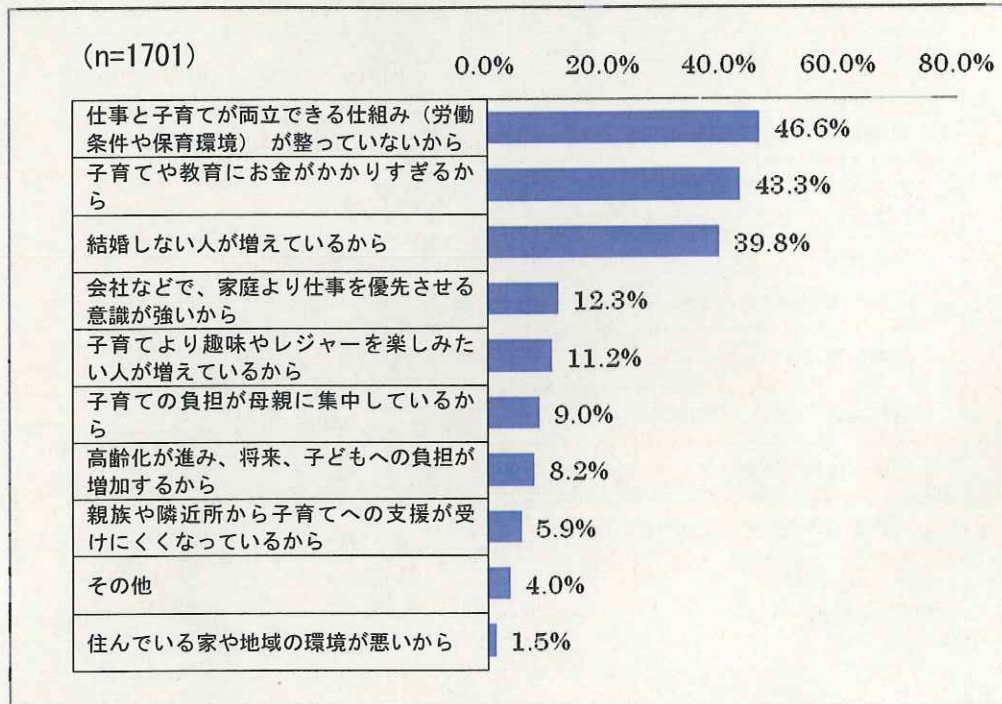


【福祉・保健・医療について】

[問 18]

全国的に少子化が進んでいますが、その理由は何だと思えますか。
2つまで○印をつけてください。



【分析結果】

【全体】

・「仕事と子育てが両立できる仕組み（労働条件や保育環境）が整っていないから」（46.6%）が最多、次いで、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（43.3%）、「結婚しない人が増えているから」（39.8%）となった。

【地域別】

・「仕事と子育てが両立できる仕組み（労働条件や保育環境）が整っていないから」は、島原半島地域（39.1%）が少ない。

【性別】

・「子育ての負担が母親に集中しているから」は女性（11.4%）が男性（6.3%）よりも多い。

【年代別】

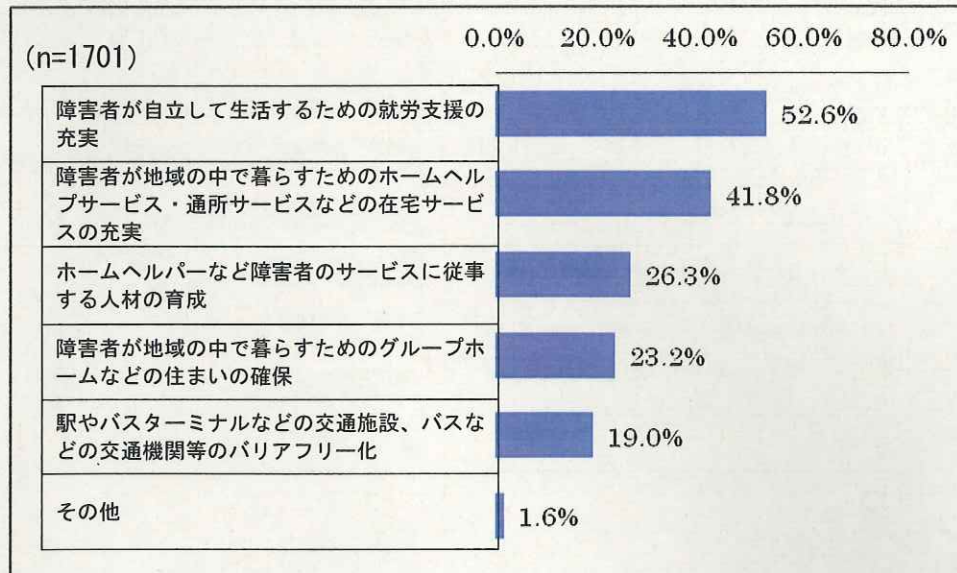
・「仕事と子育てが両立できる仕組み（労働条件や保育環境）が整っていないから」は、20～30歳代で5割を超え、年代が高くなるとともに減少傾向である。

【その他】

・「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は、既婚者（46.3%）や子どもがいる人（46.5%）が多い。

[問 19]

あなたは、今後、障害者の福祉の充実のためには、以下の施策（事業）の中でどれに力を入れていくべきだと思いますか。2つまで○印をつけください。



【分析結果】

[全体]

・「障害者が自立して生活するための就労支援の充実」（52.6%）が最も多く、次いで、「障害者が地域の中で暮らすためのホームヘルプサービス・通所サービスなどの在宅サービスの充実」（41.8%）となった。

[地域別]

・「障害者が自立して生活するための就労支援の充実」は、島原半島地域（44.1%）が少ない。
・「駅やバスターミナルなどの交通施設、バスなどの交通機関等のバリアフリー化」は、県南地域（23.3%）がやや多い。

[性別]

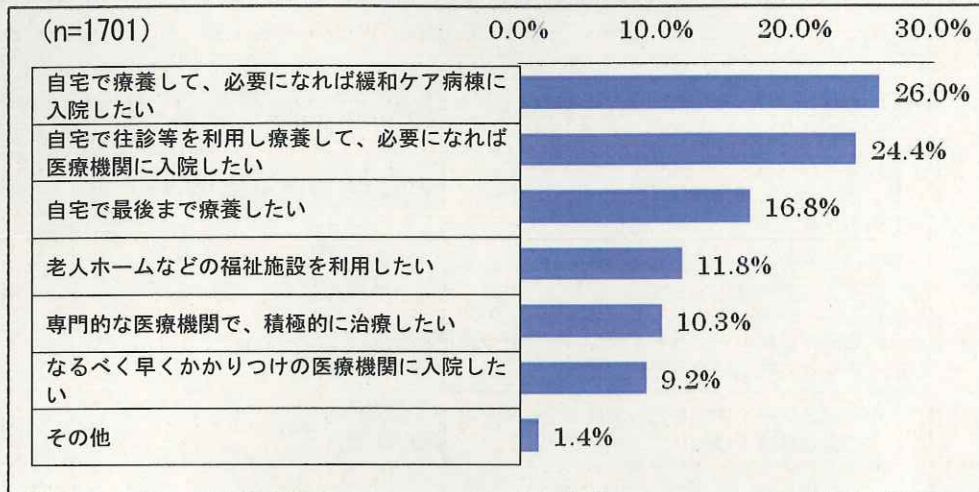
・男性・女性ともに全体の結果と同様の傾向であり、性別による特徴は見られない。

[年代別]

・「駅やバスターミナルなどの交通施設、バスなどの交通機関等のバリアフリー化」は、20～30歳代が多い。

【問 20】

超高齢社会を迎え、病院・診療所における医療のみならず住み慣れた家や施設で医療を受ける「在宅医療・療養」の推進が必要と言われています。あなたは、終末期（人生で死を迎える間際の時期）の療養場所について、どのようにお考えですか。該当するものに1つ○印をつけてください。



【分析結果】

【全体】

・「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」（26.0%）が最も多く、次いで、「自宅で往診等を利用し療養して、必要になれば医療機関に入院したい」（24.4%）となった。

【地域別】

・離島地域で、「自宅で往診等を利用し療養して、必要になれば医療機関に入院したい」（30.1%）が最多、次いで、「老人ホームなどの福祉施設を利用したい」（17.0%）となった。他の地域に比べ、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」（15.7%）が少ない。

【性別】

・「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」（男性：22.6%、女性：28.6%）、「老人ホームなどの福祉施設を利用したい」（男性：9.8%、女性：13.5%）は、男性に比べ女性が多い。
 ・「自宅で最後まで療養したい」は、女性（12.2%）に比べ男性（22.0%）が非常に多い。

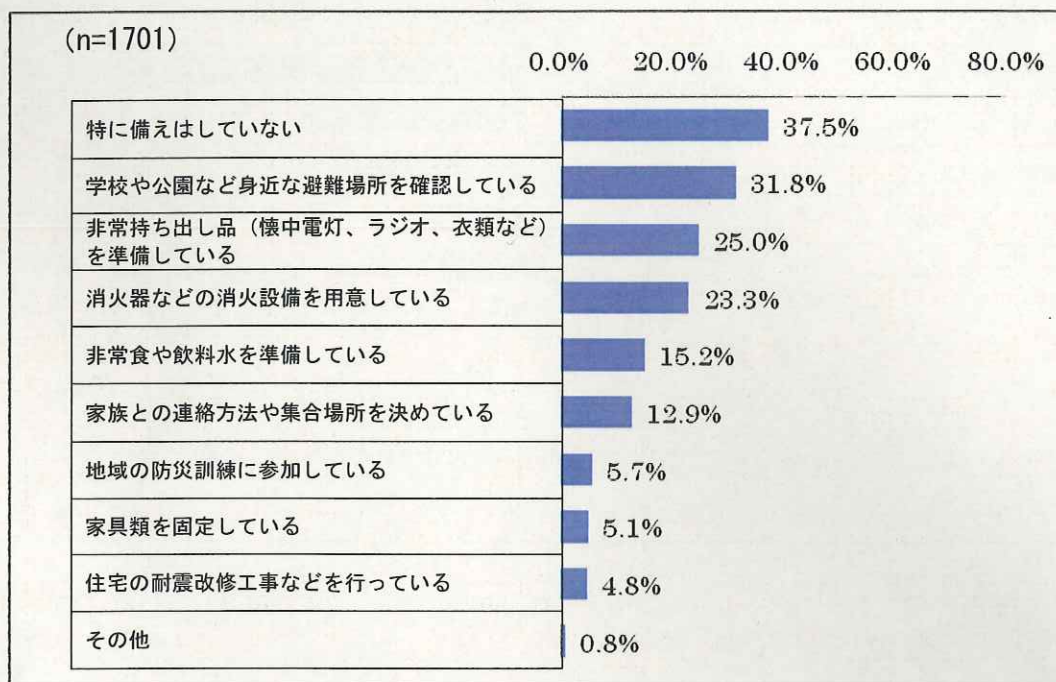
【年代別】

・「自宅で往診等を利用し療養して、必要になれば医療機関に入院したい」は、年代が高くなるとともに、減少傾向にある。
 ・「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」は、30歳代（33.3%）が最多。

【防災対策について】

[問 21]

地震や風水害などの自然災害に備えて、あなたの家で行っていることは何ですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。



【分析結果】

[全体]

・防災対策を行っている家では、「学校や公園など身近な避難場所を確認している」(31.8%)、「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣類など）を準備している」(25.0%)、「消火器などの消火設備を用意している」(23.3%)が多い。

[地域別]

・島原半島地域では、「消火器などの消火設備を用意している」(44.1%)をはじめ、「家具類を固定している」(10.1%)、「地域の防災訓練に参加している」(11.7%)が他の地域より多く、一方、「特に備えはしていない」(30.7%)は最も少ない。

[性別]

・「特に備えはしていない」は女性(35.4%)に比べて男性(40.4%)が多い。

[年代別]

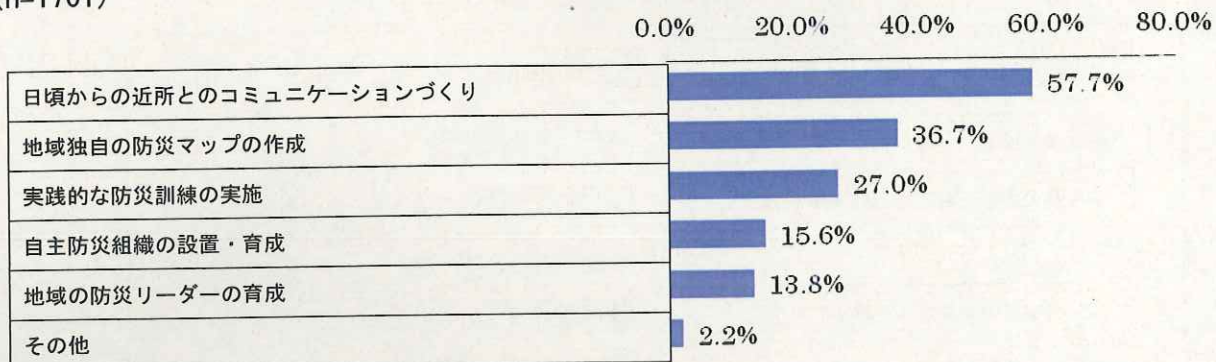
・「特に備えはしていない」は、20歳代(53.7%)が最多で、年代が高くなるとともに減少傾向となった。
 ・「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣類など）を準備している」や「消火器などの消火設備を用意している」で、年代が高くなるとともに増加傾向となった。

[問 22]

地域の自主防災力を高めるためには、何が最も重要だと思いますか。

2つまで○印をつけてください。

(n=1701)



【分析結果】

【全体】

・「日頃からの近所とのコミュニケーションづくり」(57.7%)が最も多く、突出している。次いで、「地域独自の防災マップの作成」(36.7%)となった。

【地域別】

・「日頃からの近所とのコミュニケーションづくり」は、県南地域(59.8%)、島原半島地域(63.7%)が多い。

【性別】

・男性、女性ともに全体と同様の結果となり、性別による特徴は見られない。

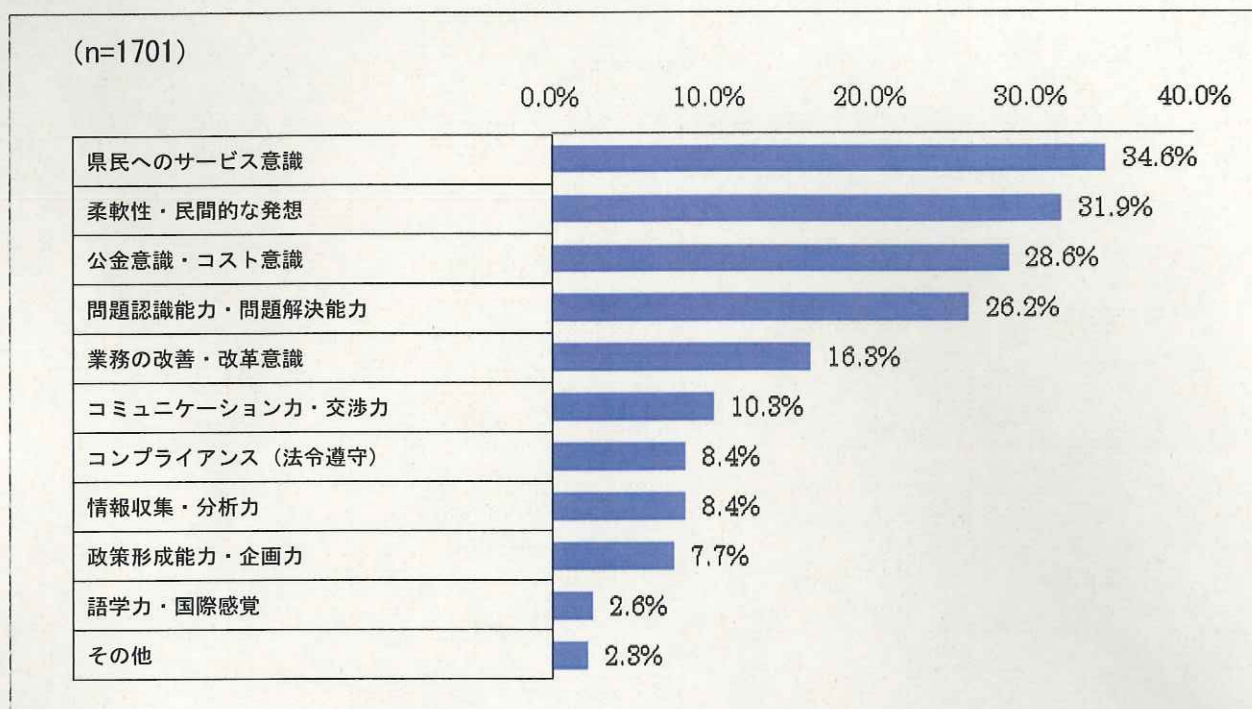
【年代別】

・「日頃からの近所とのコミュニケーションづくり」は、年代が高くなるとともに増加傾向にある。

【県の職員について】

[問 23]

県の職員が持つべき意識や能力の中で、どれが重要だと思いますか。
2つまで○印をつけてください。



【分析結果】

【全体】

- ・「県民へのサービス意識」（34.6%）が最多、次いで、「柔軟性・民間的な発想」（31.9%）、「公金意識・コスト意識」（28.6%）となった。

【地域別】

- ・「公金意識・コスト意識」は、県南地域（33.7%）、県央地域（30.3%）で多く、島原半島地域（24.0%）、離島地域（16.3%）で少ない。

【性別】

- ・「県民へのサービス意識」は、男性（37.1%）が女性（32.8%）よりもやや多い。

【年代別】

- ・「県民へのサービス意識」は、70歳以上（45.6%）が非常に多い。
- ・「コミュニケーション力・交渉力」は、年代が高くなるとともに減少傾向となった。